

## 鉄道業（鉄道運輸業）

鉄道事業法に基づく第一種鉄道事業を中核とし、広告事業も展開する総合交通企業である。埼玉県初の地下鉄として平成13年に開業し、沿線開発とともに発展を遂げてきた。

補助事業名	さいたま市DX推進補助金	実施時期	令和3年度
申請テーマ	rakumo キンタイシステムの導入補助		

### デジタル化への転換期を迎えた 鉄道事業者の挑戦

同社は鉄道事業を主軸に、駅施設等の場所貸しや広告事業を展開する総合交通企業だ。埼玉県初の地下鉄として平成13年の開業以来、沿線開発と人口増加により成長を遂げてきたが、将来的な人口減少を見据え、様々な事業にチャレンジしている。

業務のデジタル化については、Googleのクラウドサービスを導入し、社内情報の共有を推進。基本機能を拡張するクラウドツールとの連携により脱紙化や電子決裁の導入を進めてきた。しかしながら、勤怠管理の領域では依然として紙と捺印による従来型の運用が続いており、業務効率化の障壁となっていた。特に休暇申請や時間外労働の記録は手作業での集計を要し、申請・承認プロセスにも多大な時間を要する状況であった。このような課題を抱える中、行政関係者や業界内のネットワークを通じて財団の補助金制度の存在を知ることとなった。同社の勤怠管理システム導入計画が補助金の適用条件に合致することが判明し、申請への検討を開始。財団からは補助金提供に加え、専門家によるアドバイスや技術導入支援も受けられることが分かり、申請を決定した。

### クラウド型勤怠管理システムの 導入による業務改革

課題解決に向けて、複数のSaaS型勤怠管理システムを比較検討した結果、既存のクラウド型グループウェアとの親和性を重視し、「rakumo キンタイ」の採用を決定。専用の打刻装置と併せて導入を開始した。導入プロセスでは、総務部を中心に運用ルールを策定し、社内説明会を実施。試験運用でのフィードバックを反映しながら、本格導入へと移行していった。システムの円滑な運用に向け、管理者向けのトレーニングも実施している。

### 業務効率化がもたらした 働き方改革の実現

新システムの導入により、本社では勤怠管理にかかわる紙ベースの申請・承認作業が完全に廃止され、業務効率が大大幅に向上した。休暇申請や時間外労働の管理がリアルタイムで把握可能となり、申請から承認までの所要時間も大幅に短縮。管理者と社員が同一のデータベースを共有することで、業務の透明性も向上している。また、紙の使用量削減によるコストダウンと環境負荷の軽減にも寄与しており、企業の社会的責任を果たす取り組みとしても評価できる。また、現業部門についても今後の勤怠管理のデジタル化の可能性を検討している。

今後の展望として、フレックスタイムやリモートワークの導入に向けたシステム対応も検討中である。生成AIの活用にも関心を持っており、特に問い合わせ対応の自動化や業務データの分析による改善に期待を寄せている。

さらに、デジタル技術を活用した顧客サービスの向上も視野に入れており、駅構内の案内システムのデジタル化・スマート化など、利用者の利便性向上に向けた取り組みも計画している。

会社全体として、多様な働き方への対応が求められており、DXを活用した業務改善をさらに推進する考えだ。情報共有の強化を図るため、クラウドサービスの拡張活用も推進しており、より高度な業務支援ツールの導入も検討している。このように、同社は勤怠管理システムの導入を起点として、全社的なデジタル変革を推進。持続的な成長に向けた取り組みを着実に進めているところである。外部セミナーや研修への参加機会も活用しながら、デジタル技術を活用した業務改善の効果を社内で共有することで、全社的な変革への理解と協力を促進する方針だ。

### Company Date

- 代表取締役：平野 邦彦
- 所在地：埼玉県さいたま市緑区
- 資本金：100,000千円
- 従業員数：180名
- 設立年月日：1992年3月25日
- URL：<https://www.s-rail.co.jp>

